

7月30日(水)・7月31日(木)

二次試験対策講座 開催します！

お知らせ

今年も夏の二次試験対策講座の開催が決定いたしました！

講師にお招きするのは、校長経験のある先生方です。

ご希望の方は教職課程センター多摩相談室へメール・または窓口にてお申込み下さい。

皆さまのご参加お待ちしております！！

※個人面接は枠に限りがあるため、各日先着順となります。

◆会場：総合棟4階 大学院演習室1・3 ※当日はスーツ着用をお願いします。

◆時間：10:00～18:00の間(申し込み終了後、時間を振り分けます)

※申し込み締切 7月11日(金)12:00

(※当日、講座の記録として写真撮影をさせていただきます。予めご了承ください。)

《このイベントは後援会助成金で実施しています》

【メール申し込みの場合】☆宛先・kyoshokutama1@ml.hosei.ac.jp

(※件名は「二次試験対策講座申し込み」をお願いします)

☆下記①～⑩を明記の上、お申し込みください☆

- ①氏名 ②学部・学科 ③学年 ④学生証番号 ⑤携帯電話番号
⑥Eメールアドレス(PCから受信可能なもの) ⑦採用試験受験希望自治体 ⑧受験教科
⑨参加希望日時：7/30(水)・7/31(木) ※両日申し込み可

(原則として終日空けておいてください。申し込み締め切り後、時間割を組みます)

⑩希望内容：個人面接・集団面接・集団討議・模擬授業 からお選びください

(※申し込み状況によっては、両日参加希望であってもどちらか一日のみになることや、また個人面接のみ希望者にも集団面接・集団討議にご協力を頂く場合があります。予めご了承ください。)

～ご参加お待ちしております！！～

◎教職相談の申し込み、質問はこちらへ

(窓口へ来室、もしくはメールにて事前申し込み)

メールは、公的な依頼文にふさわしい文体・体裁を考え、かつ以下の内容を必ず盛り込むようにして下さい。

- ①氏名 ②学部・学科 ③学年 ④学生証番号 ⑤面談希望時間(第3希望まで) ⑥相談内容 ⑦メール・アドレス(PCから受信可能なもの)を必ず記入してください。

*宛先：kyoshokutama1@ml.hosei.ac.jp

(月・水) 柳原先生
(火) 源田先生

※教職履修・単位に関わる質問は、所属学部窓口へお願いします。

《教員採用試験まで、あと一ヶ月！》

【相談指導員：柳原 忠夫】

東京を始めとする関東近県の教員採用試験の一次試験が実施される7月6日（日）まで、あと一ヶ月を切りました。さあ、最後の追い込みをかけましょう。とは言え、4年生の多くは教育実習中で実質的に採用試験の準備は出来ず、教育実習が終わってから7日～10日程度で試験を迎えてしまう人も少なくありません。しかし、「諦めたら、そこで試合終了」です。時間がなくても出来ることはありますから、しっかり準備をして臨みましょう。

- ① 教職教養や専門教養、一般教養などの試験については、もう一度自治体の過去問題集をおさらいし、自分の苦手な分野やできなかった問題を確認します。時間がないので新たな知識を得ようとするより、間違いを少なくする方が効率的です。また、雑誌等で「教育時事」の最新情報を見ておくといと思います。
- ② 受験する自治体の「教育目標」「教育ビジョン」「教育施策」「求める教師像」などには目を通しておきましょう。
- ③ 東京都の論文対策としては、これまでの論文練習で考えた「自分のネタ」を整理し、バリエーションを増やしておくことです。1,050字をフルに書かなくても、1つのネタで10行（350字）書けるように練習します。本番でどんなテーマが出題されたとしても、自分の持っているネタをアレンジして対応し、なんとしても時間内に規定字数を書き切ることが大切です。
- ④ 千葉県やさいたま市のように集団面接がある場合は、「志望理由」「当該自治体を選んだ理由」「理想とする教師像」などの基本的な想定質問への回答を練習しておきましょう。

頑張っって一次試験を受けたら、もう合格したつもりで二次試験の対策に入ります。一次試験の発表を待っていたら、それこそ時間が無くなってしまいます。ここから二次試験が終わるまでは気が抜けませんね。逆に、3年生前倒し受験の人は試験の結果を見てから、これからの取り組み方を考えるとよいでしょう。みなさんの健闘を祈ります。何かわからないことや質問したいことがあったら、是非教職課程センターに来てください。

《教師としての「戦い」① 子どもに対する課題》

【相談指導員：源田 洋二郎】

「目の前にいる子どもをどうよく導くか」という教育実践の中で、日々私たちに課せられる仕事が、「子どもとの戦い」です。青年期前半の多感な子どもたちは、日々変化し成長していきます。突然笑ったり泣いたり、悲しんだり憎んだりは当たり前のことで、物を壊したりうそをついたり、ねたんだりいじめたり、人を陥れたりとよくもまあやってくれるなどばかりに、言葉と行動で大人に迫ってきます。長年教職を続けているとたぶんそれはこういうことだろうとか、その原因やことの結末を予想できるようになるものですが、それでも予想を上回ることをやってのけるのが若者です。私も若い頃はその行動に驚愕し、狼狽し、子どもに負けまいとする感情に任せて立ち振る舞ったものでした。数知れずしてきた失敗の中で身につけた教訓は、とにかく「話をよく聞く。」ということでした。喧嘩であれば被害の子どもの話や気持ちを聞くことはもちろんですが、加害側の子どもの話しも丁寧に聞いて、なぜそのことをしたのか、どうしてそういうことをする気持ちになったのか、ということをしつくり聞くことが大切です。喧嘩などに遭遇したときは、まず大声やパフォーマンスで止めることは必要ですが、その後他の教員とも協力して、双方を分けてじっくり話を聞く事後指導が大切です。一人で対応しなければならないときは、加害側に「後で聞くから」という約束をしておいて、被害側をその場から離して、小部屋などで座らせ、落ち着いてから話を聞きます。よく「複数で対応を」と言われますが、欠席の教員が多い日や、出張等でその子どもの担任がいない場合もあります。「生活指導担当の先生に早く報告しなきゃ。」なんて考える暇はなく、いつでも自分一人でも初期対応をするという心の準備が必要です。その場ではうまくいかなかったとしても、その誠意のある対応が、子どもたちの教員に対する信頼につながるものだと感じるようになりました。